

次期瀬戸市将来計画 基本構想（たたき台） ～2040 年を見据えたこれからのまちづくり～

2040 年を見据えて
（まちづくりを考える上での前提）

2040 年に想定される社会

《直面する課題》

- 人口減少に伴い、様々な社会課題が顕在化する
 - ・人口の約38.5%が65歳以上の高齢者となり、社会保障がひっ迫
 - ・働く場が減り、地域経済が縮小
 - ・公共インフラが老朽化し、施設の維持・最適化が課題に
 - ・地域コミュニティが希薄化し、地域の担い手不足が進む
 - ・限られた行政リソースで多様な課題に対応
 - ・コンパクトシティへの転換、立地適正化の検討も視野に

《到来するチャンス》

- 多様な人材の活躍機会の増加
- IT技術・移動方法の発展、DX推進
- 1人あたりの資源量の増加
- リニア開通による経済圏の拡大
- あらゆる分野での「地産地消」の浸透

瀬戸の地域資源・ポテンシャル

- 暮らしに溶け込むやきもの文化
- 挑戦・改革によって築いてきた1000年の歴史
- 豊かな自然と利便性の両立
- 外から来た人が活躍できる土壌
- 様々な分野で活躍する人たち
- 多様な学び・育ちの場

将来像（目指すまちの姿）

《基本姿勢》

- 直面する課題を悲観せずに正面から受け止め、到来するチャンスや瀬戸の地域資源・ポテンシャルを力にして楽しく乗り越える
- 審議会での議論や様々な手法で把握した市民意見を踏まえて、「瀬戸らしさ」を再整理

《キーワード》

化学変化

…多様なもの（人、価値観、資源など）が混ざり合い、課題を解決し、未来に向けた新たな価値を創出すること

《瀬戸市と「化学変化」》

- 焼成により土が別の物質（陶磁器）に変わる、釉薬の調合など、やきものづくり自体がそもそも「化学変化」である
- 挑戦・改革（化学変化）によって、時代に即した新たな価値を生み出し、やきもの文化・歴史を築いてきた背景がある
- 【アントレプレナーシップ・チャレンジ精神】
- 外から来た人による市民との交流や地域資源を生かした取組から、新たな賑わいや価値が生まれている
- 【瀬戸らしいダイバーシティ、関係人口・共創】

《将来像イメージ》

- 化学変化を広く内外に発信することで、まちのアイデンティティの確立や市民の誇り・愛着の醸成につなげ、また新たな化学変化を生み出していく。その循環により、まちの持続性をつくる。

【シビックプライド、誇りと愛着】

- ・化学変化が起き続ける／常に化学変化を起こす
- ・化学変化により課題をチャンスに変える
- ・ // 新たな価値を創り出す／デザインする
- ・ // 0から1を生み出す／1からXを生み出す
- ・一人ひとりの“こうありたい”が形にできる／自分らしさが叶う
- ・いくつになっても夢が更新できる

将来像の実現に必要な要素
（まちづくりで大切にしたいこと）

釉薬

瀬戸らしいダイバーシティを実現する

- 高齢者や外国人、障害のある人はもとより、ツクリテ・やきもの作家やアーティスト、起業家など、多様な人たちや価値観が共存する状態
- 多様な価値観が混ざり合い、未来に向けた新たな変化（価値の創出）を促す
- 化学変化を一緒に起こすパートナーを増やす

火

挑戦が育つ学びをつくる

- アントレプレナーシップやチャレンジ精神を育む教育を推進する
- 多様な学び／学び直しの場合・機会をつくる
- ものづくりを通じた探究教育をすすめる
- 挑戦を促す／失敗を許容する文化・風土を育み、挑戦を「瀬戸での当たり前」にしていく
- 地域資源の価値化やまちでの循環につながる視点・思考を育む

土

行動を生み出す環境をつなぐ

- 変化につながる資源／変化を促す環境を、最大限に生かす
 - ・1000年続くやきもの文化・歴史
 - ・やきものづくりを支えてきた豊かな自然・資源
 - ・都市圏への交通アクセスの良さ、高い利便性…
- 空き地・空き家など、課題に伴う新たな可能性を見出す
- 未来に向けて残すべき地域資源を磨き上げる

技術

変化を促すテクノロジーと融合する

- デジタル技術を徹底的に活用する
- スタートアップをはじめ民間企業との官民・民民連携や、大学等との連携を推進し、新たな芽吹きを促す
- 伝統と革新を融合し、新たな価値を生み出す
- データに基づくまちづくり（EBPM）を進める

基本構想審議会及び検討会議でのキーワード
市民等の意見

- 高齢者、外国人、LGBTQ…各々の違いを受入れ、これを力にしながら成長する
- 多様な人が支え合う風土が当たり前
- 「故郷に錦を飾る」意欲のある人は一定数いる
- 訪れた人が、どれだけ地域の人と関わり、価値創造や生産活動をしていくかを目指していく
- 地域の人が、いかにまちづくりの担い手として活躍していくかも大切な視点である

- 起業家をはじめ、棋士や俳優、スポーツチームなど、様々な分野で活躍する人・出身者がいる
- 小中一貫校や私立小中学校など、教育の場の多様な選択肢がある
- 外から来た人を受け入れる土壌がある
- 住んでいる人や外から来た人が、好きなようにチャレンジできるまちになってほしい
- 瀬戸だからこそ個性的な人材が育つという特徴を出す
- 行政も地域においても「稼ぐ」視点は重要

- せとものが日々の暮らしの中に溶け込む
- シビックプライドが醸成される背景・文脈がある
- 東京圏・名古屋からの立地・アクセスの良さ
- 人口減少を「限られた資源が余裕を持って使える」と前向きに捉えた議論もできると良い
- 瀬戸にはすでに、様々なチャレンジしやすい環境が整っている
- 人口減少社会では、「何を残し、何を減らすか」を見極めることが必要になる

- 行政の人材・予算などが減少する中、多様化する住民ニーズに対応していくことは困難
- 地域課題解消に向けたDXに取り組むには、目的意識を持った事業の実施が必要
- 大学の知見や大学生の若い力は、変化を生む重要な要素
- 官×民×民の連携により、新たなビジネス機会や挑戦、学びにつながる